

神奈川県立図書館の「受賞作コーナー」と 「文学賞帯付本コレクション」

松崎 美優

はじめに

神奈川県立図書館（以下「当館」という）の「受賞作コーナー」は、2014年4月に新設されたばかりのコーナーである。本館2階閲覧室に設置されており、芥川龍之介賞、直木三十五賞、江戸川乱歩賞、川端康成文学賞（以下「芥川賞」「直木賞」「乱歩賞」「川端賞」という）の受賞作を書架に並べ、個人貸出可能な資料として提供している。

本稿では、新コーナー設置にいたるまでの経緯をたどるとともに、その内容について紹介をする。また、コーナー設置にともない新設された特別コレクション、「文学賞帯付本コレクション」についてもその概要について記す。

1 「受賞作コーナー」の新設

1.1 コーナー設置の背景

1.1.1 受賞作の収集、提供

当館では、コーナー設置以前から小説に限らず各種受賞作を収集、提供してきた。これは、当館の「神奈川県立図書館資料収集要綱」第5条第1項第1号に依拠するものであり、受賞作が「学術的、社会的に評価の高いもの」¹⁾の範囲にあたるためである。現在、小説以外の文学賞や社会科学系の賞もあわせて、全部で39の賞が購入の対象となっている（表1 当館図書課作成資料）。このリストの元となった2003年5月選定の購入対象の賞一覧によると、これまで対象とする賞についての定めがなかったことを踏まえ、2000年以降に購入候補とした賞を参考として、対象の選定がなされたようである。したがって、少なくとも15年以上前から受賞作の収集および提供が始まっていたことが分かる。

さらに、2003年の賞一覧には、これを基準として今後も加除や検討を続けていく旨が示されていた。実際に、現在は2013年2月に改訂されたリストを使用している。改訂の際には、当館の収集範囲と照らし合わせて社会科学系の賞に目を向けたり、今まで対象とされていなかった文学分野に配慮したりしながら、対象となる賞の再検討が行われたようである。このことから、受賞作が当館の資料収集において継続的かつ積極的に捉えられてきたことがうかがえる。

1.1.2 特色ある蔵書のアピール

以前から受賞作を収集してきたという背景に加え、特色ある蔵書のアピールという近年の意識の高まり^{2) 3)}もコーナー設置に向けた後押しとなった。当館は人文・社会科学系リサーチライブラリーとして、調査、研究のための資料を中心として収集を行っている。したがって、基本的には、市町村立図書館に所蔵しているような新刊の小説分野の図書を購入することはない。そのため、古くなった図書も継続して公開書架に並んだままという状態が長らく続いた。このような状況のなか、2014年の館内レイアウト再検討の際、書庫入れも視野に入れた小説分野の公開書架の見直しが行われた。コーナーの企画者によると、この見直しを契機として古くなった小説分野の図書のなかに多くの過去の受賞作が埋もれているということが改めて見いだされ、すべてを書庫内に入れてしまうのではなく、これらを活かそうという動きが出てきたのだという。

前項で述べたように、当館では受賞作を継続的に収集しており、これは特色ある蔵書のひとつともいえるだろう。そこで、受賞作をまとめたかたちで提供し、受賞作を更によく知り、親しんでいただくためのコーナー、すなわち「受賞作コーナー」が設置されることになったのである。

1.2 コーナー設置の実際

1.2.1 選定、収集方法

所蔵している受賞作すべてをコーナーに置くことは物理的に困難である。また、社会科学系の受賞作を別置することに関しては、利用の観点からも問題が指摘された。社会科学系の図書は、その図書単体の利用以外にも、調べものの

過程において他の関連資料と併せた利用が多く見込まれる。調べものをする際、常に必要な資料を確定させてから探すとは限らない。調べたいテーマが大まかにしか決まっていなければ、どの資料を使うかまでは絞らず、まずは関連分野の書架を見て回るということもあるだろう。そのため、社会科学系の図書のうち受賞作のみを別置にすることは、かえって利用者の活用しにくい形態となる可能性が否定できない。そこで、前節2項で述べた経緯も踏まえて小説分野の文学賞からコーナーを始めることになり、購入対象賞のリストから当館の「受賞作コーナー」にふさわしいと考えられる賞が選定された。

まず、はじめに選ばれたのは芥川賞と直木賞である。両賞は誰もが認める文学賞であり、さらに150回目を迎える節目の年とコーナーの創設が重なったことも選定の要因となった。次に、一般に知名度が高く、かつ伝統ある賞であることから、乱歩賞が候補に挙がった。コーナー構成を考える上でも、純文学の芥川賞、大衆文学の直木賞に対して、推理小説という小説の特定分野を対象とする乱歩賞という組み合わせはバランスが良いと考えられた。そして、4つ目の賞として、ノーベル賞受賞者である川端康成の名を冠した川端賞が決定した。賞の選定の際に神奈川県ゆかりの作家の賞を入れるという意見が挙がっており、川端がゆかりのある人物であるということも選定の理由の一つとなった。

コーナー設置にあたっては、これまでの所蔵資料を基礎として構成することになった。今後の受賞作の受け入れに関しては、後述する「文学賞帯付本コレクション」への購入が優先的になされ、貸出用すなわちコーナーに置く資料は寄贈により収集していくという方針がとられている。また、欠けている受賞作の補充については現在も寄贈の呼びかけが行われている。受賞作は貸出利用の希望が多いため、コレクション化により貸出用図書の補充が寄贈に頼らざるをえなくなっている現状への是非も問われるところである。

1.2.2 配架方法

コーナーは本館2階閲覧室に設置されており、文学関係の書架に近い位置にある。芥川賞と直木賞が書架2連分ずつ、乱歩賞と川端賞は1連の書架の半分ずつを占めており、コーナー全体としては5連分の棚で構成されている。図1

は最新のコーナーの様子である。装備については、背ラベルの下部分に各賞名を貼ることにより、「受賞作コーナー」の資料であることやどの賞の受賞作であるかが一目で分かるようになっている。もともと所蔵していた資料を移動させたため、分類は受入時のままであり、コーナー専用の請求記号は付されていない。

さらに、コーナー設置に際して利用者配付用に受賞作コーナーの各賞作品一覧を作成した。このリストは受賞作コーナーのものであり、個人全集、大活字本、文庫本は含んでいない。受賞年度及び受賞回順にリスト化されており、受賞者、受賞作、資料番号、備考として所蔵の有無や所収している本の書名が記載されている。紙幅の都合上、芥川賞のリストのみ、資料番号を削除した形で本稿末尾に付した（表2）。



図1 受賞作コーナー（2015.9.10撮影）

2 コーナー設置にともなう「文学賞帯付本コレクション」の新設

2.1 コレクション創設の経緯

「文学賞帯付本コレクション」は、「受賞作コーナー」の設置から約半年後の2014年10月に創設された特別コレクションである。コーナーの欠本補充等を行うにあたって入手した、受賞作であることを示す「受賞帯」付本を活用し、それらを帯付の状態コレクション化する案が出されたことが創設の契機となった。提案当初から、個人貸出はせずに調査・研究用の館内閲覧および展示への活用という方向性が打ち出されていた。当時の提案者によると、貸出用の

コーナー資料と対をなすようなかたちで保存、展示用の特別コレクションを考えていたようである。また、当館の展示のほか、県内の公共図書館、大学図書館等の展示にも利用してもらう資料として、当館の情報発信ツールの一つという側面も含まれていた。

コレクションする対象を決定する際には、文学のほか社会科学系の賞や神奈川県にゆかりのある作家の賞についても意見が交わされた。まず、受賞作を対象とすることについては、それぞれの時代において社会的に高い評価を得た作品は研究対象になるため、継続的に収集、保存するにふさわしいとされた。そして、コレクション構築にあたって必要となるコストや当館コレクションとしての意義も含めて検討した結果、最終的に、文学賞のなかでも長い歴史をもつ芥川賞と直木賞をコレクション対象とすることに決まった。

2.2 収集、整理、保存方法

収集については、既に1.2.1項で述べたようにコレクション用の帯付本を一部ずつ購入し、貸出用は職員をはじめとして寄贈を呼びかけるという方針がとられており、コレクションの継続性に重点が置かれている。

整理方法は、当館所蔵のベストセラーズ文庫⁴⁾に準じている。刊行当時の装幀を損なわない形で保存することを目指し、すべての図書を中性紙の保存箱に入れた。受賞帯はもちろん、函も一緒に販売時点の状態で保存する。また、愛読者カード、宣伝用チラシ等は、保存の必要がある独特なものに限り、図書から取り出して中性紙に包み、一緒に保存している。請求分類はAK(芥川賞)またはNA(直木賞)と受賞年の組み合わせ、図書記号は受賞回によっており、請求記号順に配架されている。

さらに、当館の蔵書に特色を持たせようという意向のもと著者署名入りの受賞作の収集が提案され、現在、「文学賞帯付本コレクション」の複本として同コレクションに準じた整理、保存が行われている。なお、背ラベルの3段目には「ショメイ」と記入されており、署名のない帯付本コレクションとは区別がつくように整備されている。図2は署名本も含めたコレクションのラベル例である。左から順番に、芥川賞2013年上半期(第149回)受賞作、直木賞2014

年上半期（第 151 回）受賞作、直木賞 2009 年上半期（第 141 回）受賞作の署名本に対応している。

AK2013	NA2014	NA2009
149	151	141
		ショメイ

図2 「文学賞帯付本コレクション」のラベル例

3. 今後の課題

3.1 コレクション関連図書の集約化の必要

「受賞作コーナー」および「文学賞帯付本コレクション」はどちらも創設が新しく、後発の取り組みであるが故の課題も抱えている。その課題の一つが、受賞作が館内において分散して所蔵、配架されていることである。具体的には、コーナーやコレクション以外に神奈川資料や女性関連資料⁵⁾、戦時文庫⁶⁾等において受賞作の保管が行われている。そして、これらの資料収集の背景や利用者への提供方法はそれぞれ異なる。神奈川にゆかりのある著者による作品として収集された神奈川資料は、かながわ資料／新聞・雑誌室の書庫に常置本として保管されている。戦時文庫は第二次世界大戦下に発行された戦意高揚図書コレクションとして、書庫に保管され、館外貸出を行っていない。一方、女性関連資料としての受賞作の多くは一般貸出が可能であり、刊行当時の装幀のまま女性関連資料室の公開書架に並べられている。

このように収集の目的が異なるため、保管場所や提供方法が異なるのは当然なことではある。しかしながら、今後、コーナーやコレクションを構築していくにあたって、対象としている受賞作が他にどの場所に配架されているかを把握していくことが、将来的には望ましいように思われる。

3.2 「受賞作コーナー」および「文学賞帯付本コレクション」の今後

新しい取り組みであるが故の課題としては、今後の展開の方向性という問題も挙げられる。本稿の1.2.1項で触れたように、コーナー資料の選定は受賞作すべてを置くことが不可能であることを前提として行われており、書庫の中には現在の4つの賞以外の数多くの受賞作が保管されている。「受賞作コーナー」は、利用者の皆様が受賞作により親しんでいただけるように、という目的をもって設置された。したがって、より良いサービスを提供するためにも、対象とする賞の再検討も視野に入れながら、更なるコーナーの充実を目指すことが望まれる。

さらに、収集が始められたばかりの署名本の今後についても課題である。現在は「文学賞帯付本コレクション」の複本として整理されているが、将来的にどのようなかたちで保存していくかは、取り組むべき課題の一つである。

おわりに

本稿では、「受賞作コーナー」、「文学賞帯付本コレクション」の創設の経緯とその概要、課題について記してきた。これらの新たな取り組みは、これまで蓄積してきた蔵書群をいかに利用者に魅力あるものとして発信し、さらに将来に向けて保存していくか、というこれからの図書館が進むべき道の一面が反映されたものともいえよう。今後の課題を見据えつつ、当館の更なるサービス向上の契機としていきたいと考える。

注、引用・参考文献

- 1) 神奈川県立図書館. “神奈川県立図書館資料収集要綱”. 神奈川県立図書館. 2015. 4. 1.
<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/common/youkou20150401.pdf>,
(参照 2015-09-09) .
- 2) “第3章 蔵書をアピールする—最近10年②—”. 神奈川県立図書館60年の歩み. 神奈川県立図書館, 神奈川県立図書館, 2014, p. 16-24.
- 3) “第3章 蔵書をアピールする—最近10年②—”. 神奈川県立図書館60年の歩

み：ビジュアル版. 神奈川県立図書館, 神奈川県立図書館, 2014, p. 10-13.

- 4) 神奈川県立図書館. “コレクション紹介”. 神奈川県立図書館. 2015. 9. 5.
<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/yokohama/materials/collection.htm>,
(参照 2015-09-05) .
- 5) 神奈川県立図書館. “館内・サービス・見学のご案内（フロアマップ）”. 神奈川県立図書館. 2015. 9. 5.
<https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/yokohama/guide/guide.htm>,
(参照 2015-09-05) .
- 6) 神奈川県立図書館. “コレクション紹介”. 神奈川県立図書館. 2015. 9. 5.
<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/yokohama/materials/collection.htm>,
(参照 2015-09-05) .

表1 購入対象の賞一覧

H15.5.9選定
H25.2.7改訂

※賞の五十音順

	主な分野	賞名	主催	概要	開催回数 (H27.10 現在)
1	文学 (小説)	芥川賞	日本文学振興会	故芥川龍之介の名を記念し、文藝春秋社の菊池寛が「文藝春秋」昭和10年1月号に「芥川・直木賞宣言」を発表して直木賞と同時に創設。無名、もしくは新進作家の登竜門として最も権威のある賞とされている。	153回
2	政治・ 経済・ 文化	アジア・太平洋賞	アジア調査会	社団法人アジア調査会の創立25周年を記念して創設。アジア・太平洋地域の政治、経済、外交、文化に関する優れた著書をまとめた研究者や実践者が対象。	26回
3	政治・ 経済・ 文化	石橋湛山賞	石橋湛山記念財団	石橋湛山氏(第56代内閣総理大臣、元東洋経済新報社社長)の卓越した思想と貢献とを永く記念するため、東洋経済新報社、経済倶楽部後援のもとに石橋湛山記念財団により1980年に創設された。過去1年間に政治、経済、外交、社会、文化などの領域で、自由主義、民主主義、平和主義の思想に基づいて、雑誌、研究誌、書籍などに発表された優れた論文、評論を対象に、授与される。	36回
4	文学一般	泉鏡花文学賞	金沢市	泉鏡花の生誕100年を記念して昭和48年に制定。近代日本の文芸に偉大な貢献をなした鏡花の功績をたたえ、あわせて鏡花文学をはぐくんだ金沢の風土と伝統を広く人々に認知してもらおう。ロマンの香り高い文学作品を選考。	42回
5	文学(詩)	H氏賞	日本現代詩人会	新人のすぐれた詩集を、広く社会に推奨することを目的にH氏(平沢貞次郎氏、昭和35年まで匿名であったためこの名前がある。)の基金により昭和25年に創設。	65回
6	経済	エコノミスト賞	毎日新聞社	日本経済および日本経済と世界経済との関連について、優れた分析を加えた著書(論文)に授与される。	55回
7	文学(小説)	江戸川乱歩賞	日本推理作家協会	江戸川乱歩氏が自らの還暦記念として基金を提供し、昭和29年に創設した賞。当初は推理小説界の功労者の表彰に当てたが、第3回以降は新進推理作家の発掘と育成を目的とし、一般から書き下ろし原稿を募集。受賞作は講談社から刊行される。	61回
8	文学(記録 文学・ 評論・ 随筆)	大宅荘一ノンフィクション賞	日本文学振興会	故大宅荘一氏の半世紀にわたるマスコミ活動を記念して、昭和44年に制定された賞で、新しいノンフィクション作家誕生の場となっている。	46回
9	文学一般	大佛次郎賞	朝日新聞社	故大佛次郎氏の幅広い業績を記念し、昭和49年に創設。日本語の散文として質が高く、人間精神への鋭い洞察を含み、歴史および現代文明の批評として意義の大きい作品に授賞。	41回

	主な分野	賞名	主催	概要	開催回数 (H27.10 現在)
10	政治・経済・文化	大佛次郎論壇賞	朝日新聞社	2001年創設。新世紀の幕開けを機によりよい社会の創造を目指し、日本の政治・経済・社会・文化・国際関係等をめぐる優れた論考を顕彰する。	14回
11	国文学・国史学	角川源義賞	角川文化振興財団	角川書店創立者である故角川源義の遺志に基づき、昭和54年に制定。日本文化の振興・発展のため、国文学、国史学の両分野におけるすぐれた業績を顕彰。	36回
12	文学(小説)	川端康成文学賞	新潮社	故川端康成を記念して川端康成記念会が昭和48年に創設した賞。日本人として初めてのノーベル文学賞の賞金を基金とし、最も完成度の高い短編小説に与えられる。第25回を第1期とし、川端康成生誕100年を機会に平成12年から第2期として再出発。	41回
13	文学一般	芸術選奨	文化庁	芸術活動の奨励と振興とに資するため「芸能選奨」を制定。昭和24年までは芸術祭参加者をおもな対象とし、また30年からは「芸術選奨」と改称した。芸術各分野ですぐれた業績をあげた人および団体を選奨する。第18回から「芸術選奨文部大臣新人賞」が設けられた。「文学」「評論等」	65回
14	文学(短歌)	現代短歌大賞	現代歌人協会	日本歌壇の第一線で活躍する作家の団体である現代歌人協会が、現代短歌の向上と発展を期することを目的として、前年10月より翌9月までに刊行された短歌に関する著作(歌集・研究書等)を対象とし、その最も優れたものを顕彰する文学賞。	36回
15	文学(記録文学・評論・随筆)	講談社ノンフィクション賞	講談社	日本のノンフィクションをさらに充実・発展させるため昭和54年創設。前身は講談社出版文化賞のなかのノンフィクション部門で54年から賞として独立。	37回
16	文学一般	小林秀雄賞(新潮4賞)	新潮社	財団法人新潮文芸振興会が昭和62年に創設した新潮4賞のうち、新潮学芸賞を発展させるかたちで平成14年に新設した賞。小林秀雄の生誕100年を記念。日本語による言語表現作品で、自由な精神と柔軟な知性に基づいて新しい世界像を呈示したノンフィクション作品に授賞。	14回
17	文学(記録文学・評論・随筆)	サントリー学芸賞	サントリー文化財団	「政治・経済」「芸術・文学」「社会・民俗」「思想・歴史」の4部門あり、個性豊かで将来の期待される新進の評論家、研究者であること、本人の思想、主張が明確な作品であることに主眼が置かれる。広く社会と文化を考える独創的で優れた研究、評論活動を、著作を通じて行った個人に対して授賞。	36回
18	文学(記録文学・評論・随筆)	新潮ドキュメント賞(新潮4賞)	新潮社	財団法人新潮文芸振興会が昭和62年に創設した新潮4賞のうち、新潮学芸賞を発展させるかたちで平成14年に新設した賞。ジャーナリクティックな視点から現代社会と深く切り結び、その公正・表現において文学的にも良質と認められるノンフィクション作品に授賞。	14回
19	文学(詩)	高見順賞	高見順文学振興会	故高見順の日本文学に遺した功績を記念して、現代詩文学の発展のためにすぐれた人材を発掘顕彰し、もってわが国文化の向上に資することを目的として創設。	45回

	主な分野	賞名	主催	概要	開催回数 (H27.10 現在)
20	文学 (小説・戯曲)	谷崎潤一郎賞	中央公論新社	中央公論社が昭和40年に創業80年を記念して創設。全文壇を対象に小説および戯曲のうちからその年度を代表する文学作品を選び顕彰する。	51回
21	文学 (小説)	直木賞	日本文学振興会	故直木三十五の名を記念して菊池寛が芥川賞と同時に昭和10年に制定。無名もしくは新進作家の大衆文芸作品のうち、最も優秀なものに贈られる。芥川賞とともに一流作家への登竜門として最も権威のある賞とされている。	153回
22	政治・経済・文化	日経・経済図書文化賞	日本経済新聞社	経済および経営・会計分野の学問・知識の向上に貢献するとともに、その一般普及・応用に寄与することを目的として昭和33年に設立。若手エコノミストの登竜門と呼ばれるなど、この分野では最も権威があるとされている。	57回
23	文学 (小説)	日本SF大賞	日本SF作家クラブ/徳間書店	ジャンルやメディアにとらわれず、対象年度内に発表されたSF作品の中からもっともすぐれた業績を選んで顕彰し、SF界の発展に寄与することを目的として、1980年に創設された賞。 ※媒体が当館の収集範囲外だった場合などは購入しない	35回
24	文学 (記録文学・評論・随筆)	日本エッセイストクラブ賞	日本エッセイストクラブ	日本エッセイスト・クラブが昭和27年に創設した賞。さまざまな分野のエッセイの単行本からすぐれたものを選択。	63回
25	文学 (小説)	日本推理作家協会賞	日本推理作家協会	日本探偵作家クラブ創立にともなって、昭和22年「日本探偵作家クラブ賞」が制定され昭和38年にクラブが日本推理作家協会と改組されたのを機に第16回から「日本推理作家協会賞」と改称された。昭和51年に長篇、短編、評論その他の3部門となる。	68回
26	翻訳作品	日本翻訳文化賞	日本翻訳家協会	54年に日本ペンクラブから翻訳部門が独立して設立された日本翻訳家協会が、翻訳文化の奨励を目指して'64に創設した賞。優れた翻訳者に与えられる。	52回
27	文学一般	野間文芸賞	野間奉公会	講談社の初代社長野間清治の遺志により設立された財団法人野間奉公会の事業の一環。小説、戯曲、評論、随筆、ノンフィクションなどの広い分野の作品。	67回
28	文学 (俳句)	俳人協会賞	俳人協会	(解説なし)	54回
29	経済	発展途上国研究奨励賞	ジェトロ・アジア経済研究所	1980年度に創設。発展途上国に関する社会科学およびその周辺分野における調査研究の優れた業績を評価し、この領域における研究水準の向上に資することを目的とする。経済およびこれに関連する諸事情を調査または分析した著作を対象とする。	36回
30	芸術	毎日芸術賞	毎日新聞社	昭和34年の毎日新聞創刊30000号を機に創設。すぐれた芸術活動をした人や団体に贈る賞で、文化勲章、文化功労賞に次ぐ名誉な賞とされる。	56回

	主な分野	賞名	主催	概要	開催回数 (H27.10 現在)
31	出版文化	毎日出版文化賞	毎日新聞社	優れた出版物の著编者、訳者、出版社を顕彰する賞。	68回
32	文学 (小説)	三島由紀夫賞 (新潮4賞)	新潮社	財団法人新潮文芸振興会が20周年を迎えた昭和62年に、それまでの三大新潮賞にかえて創設した新潮4賞のうちの一つ。新潮社と縁の深かった三島由紀夫を記念するもので、文学の前途を拓く新鋭の作品に授賞。	28回
33	文学一般	山本七平賞	PHP研究所	故山本七平氏の長年にわたる思索、著作、出版活動を顕彰することを願い、平成3年に創設。政治・経済・歴史・思想・宗教・比較文化の人文社会科学部門の作品で、アイデアに富む着想と平易な表現の作品に授賞。	24回
34	文学 (小説)	山本周五郎賞 (新潮4賞)	新潮社	財団法人新潮文芸振興会が20周年を迎えた昭和62年に、それまでの三大新潮賞にかえて創設した新潮4賞のうちの一つ。新潮社と縁の深かった山本周五郎を記念するもので、すぐれて物語性を有する新しい文芸作品に授賞。	28回
35	文学一般	吉川英治文学賞	吉川英治国民文化振興会	故吉川英治の功績を記念して財団法人吉川英治国民文化振興会が設立した賞。昭和42年設定。	49回
36	芸術	吉田秀和賞	吉田秀和芸術振興基金 (戸芸術館)	平成2年創設の賞で、音楽・演劇・美術などの各分野で、優れた芸術評論を発表した人に対して贈られる。研究としても独創的で作品として見ても完成度の高い芸術論が対象。	24回
37	政治・経済・文化	読売・吉野作造賞	読売新聞社	吉野作造賞と読売論壇賞を一本化し、2000年に創設。政治、経済、社会、歴史、文化の各分野における優れた論文および評論を顕彰する。	16回
38	文学一般	読売文学賞	読売新聞社	昭和25年、戦後の文芸復興と日本文学の振興を目的に制定。小説、戯曲、評論・伝記、詩歌俳句、研究・翻訳の5部門について授賞、第19回からは随筆・紀行を加え6部門とし、第46回から戯曲を戯曲・シナリオ部門に改め現在にいたる。	66回
39	社会科学 (労働)	労働関係図書優秀賞	労働政策研究・研修機構/読売新聞社	労働に関する総合的な調査研究を奨励し、労働問題に関する知識と理解を深めることを目的とする。	37回

表2 受賞作コーナー 芥川賞作品一覧

H27.10

*このリストは受賞作コーナーのもので、個人全集、大活字本、文庫本は、含まれていません。

受賞回	受賞年度	受賞者	受賞作	備考
第1回	昭和10年上半年	石川達三	蒼氓	所蔵あり
第2回	昭和10年下半年	なし	なし	
第3回	昭和11年上半年	小田巖夫	城外	『望郷』所収
		鶴田知也	コシヤマイン記	芥川賞全集第1巻所収
第4回	昭和11年下半年	石川淳	普賢	芥川賞全集第1巻所収
		富澤有爲男	地中海	芥川賞全集第1巻所収
第5回	昭和12年上半年	尾崎一雄	暢気眼鏡 他	芥川賞全集第1巻所収
第6回	昭和12年下半年	火野葦平	糞尿譚	芥川賞全集第2巻所収
第7回	昭和13年上半年	中山義秀	厚物咲	芥川賞全集第2巻所収
第8回	昭和13年下半年	中里恒子	乗合馬車 他	所蔵あり
第9回	昭和14年上半年	半田義之	鷄騒動	芥川賞全集第2巻所収
		長谷健	あさくさの子供	芥川賞全集第2巻所収
第10回	昭和14年下半年	寒川光太郎	密猟者	芥川賞全集第2巻所収
第11回	昭和15年上半年	なし	なし	
第12回	昭和15年下半年	櫻田常久	平賀源内	所蔵あり
第13回	昭和16年上半年	多田裕計	長江デルタ	芥川賞全集第3巻所収
第14回	昭和16年下半年	芝木好子	青果の市	芥川賞全集第3巻所収
第15回	昭和17年上半年	なし	なし	
第16回	昭和17年下半年	倉光俊夫	連絡員	芥川賞全集第3巻所収
第17回	昭和18年上半年	石塚喜久三	纏足の頃	芥川賞全集第3巻所収
第18回	昭和18年下半年	東野邊薫	和紙	芥川賞全集第3巻所収
第19回	昭和19年上半年	八木義徳	劉廣福	芥川賞全集第3巻所収
		小尾十三	登攀	芥川賞全集第3巻所収
第20回	昭和19年下半年	清水基吉	雁立	芥川賞全集第3巻所収
第21回	昭和24年上半年	小谷剛	確証	『非行・挽歌抒情』所収
		由起しげ子	本の話	芥川賞全集第4巻所収
第22回	昭和24年下半年	井上靖	鬪牛	芥川賞全集第4巻所収
第23回	昭和25年上半年	辻亮一	異邦人	所蔵あり
第24回	昭和25年下半年	なし	なし	
第25回	昭和26年上半年	安部公房	壁	芥川賞全集第4巻所収
		石川利光	春の草 他	芥川賞全集第4巻所収
第26回	昭和26年下半年	堀田善衛	広場の孤独・漢奸その他	芥川賞全集第4巻所収
第27回	昭和27年上半年	なし	なし	
第28回	昭和27年下半年	五味康祐	喪神	芥川賞全集第5巻所収
		松本清張	或る「小倉日記」伝	『戦国権謀』所収
第29回	昭和28年上半年	安岡章太郎	悪い仲間・陰気な愉しみ	所蔵あり
第30回	昭和28年下半年	なし	なし	
第31回	昭和29年上半年	吉行淳之介	驟雨・その他	芥川賞全集第5巻所収
第32回	昭和29年下半年	小島信夫	アメリカン・スクール	所蔵あり
		庄野潤三	プールサイド小景	『結婚』所収
第33回	昭和30年上半年	遠藤周作	白い人	芥川賞全集第5巻所収

第34回	昭和30年下半年	石原慎太郎	太陽の季節	所蔵あり
第35回	昭和31年上半年	近藤啓太郎	海人舟	所蔵あり
第36回	昭和31年下半年	なし	なし	
第37回	昭和32年上半年	菊村到	硫黄島	所蔵あり
第38回	昭和32年下半年	開高健	裸の王様	所蔵あり
第39回	昭和33年上半年	大江健三郎	飼育	『死者の奢り』所収
第40回	昭和33年下半年	なし	なし	
第41回	昭和34年上半年	斯波四郎	山塔	所蔵あり
第42回	昭和34年下半年	なし	なし	
第43回	昭和35年上半年	北杜夫	夜と霧の隅で	所蔵あり
第44回	昭和35年下半年	三浦哲郎	忍ぶ川	所蔵あり
第45回	昭和36年上半年	なし	なし	
第46回	昭和36年下半年	宇能鴻一郎	鯨神	所蔵あり
第47回	昭和37年上半年	川村晃	美談の出発	所蔵あり
第48回	昭和37年下半年	なし	なし	
第49回	昭和38年上半年	後藤紀一	少年の橋	所蔵あり
		河野多恵子	蟹	所蔵あり
第50回	昭和38年下半年	田辺聖子	感傷旅行センチメンタル・ジャーニイ	所蔵あり
第51回	昭和39年上半年	柴田翔	されどわれらが日々——	所蔵あり
第52回	昭和39年下半年	なし	なし	
第53回	昭和40年上半年	津村節子	玩具	所蔵あり
第54回	昭和40年下半年	高井有一	北の河	所蔵あり
第55回	昭和41年上半年	なし	なし	
第56回	昭和41年下半年	丸山健二	夏の流れ	所蔵あり
第57回	昭和42年上半年	大城立裕	カクテル・パーティー	所蔵あり
第58回	昭和42年下半年	柏原兵三	徳山道助の帰郷	所蔵あり
第59回	昭和43年上半年	丸谷才一	年の残り	所蔵あり
		大庭みな子	三匹の蟹	所蔵あり
第60回	昭和43年下半年	なし	なし	
第61回	昭和44年上半年	庄司薫	赤頭巾ちゃん気をつけて	所蔵あり
		田久保英夫	深い河	所蔵あり
第62回	昭和44年下半年	清岡卓行	アカシヤの大連	所蔵あり
第63回	昭和45年上半年	吉田知子	無明長夜	所蔵あり
		古山高麗雄	ブレオー8の夜明け	所蔵あり
第64回	昭和45年下半年	古井由吉	杓子	所蔵あり
第65回	昭和46年上半年	なし	なし	
第66回	昭和46年下半年	李恢成	砧をうつ女	所蔵あり
		東峰夫	オキナワの少年	所蔵あり
第67回	昭和47年上半年	畑山博	いつか汽笛を鳴らして	所蔵あり
		宮原昭夫	誰かが触った	所蔵あり
第68回	昭和47年下半年	山本道子	ベティさんの庭	所蔵あり
		郷静子	れくいえむ	所蔵あり
第69回	昭和48年上半年	三木卓	鴉	『砲撃のあとで』所収
第70回	昭和48年下半年	野呂邦暢	草のつるぎ	所蔵あり
		森敦	月山	所蔵あり
第71回	昭和49年上半年	なし	なし	

第72回	昭和49年下半年期	日野啓三	あの夕陽	所蔵あり
		阪田寛夫	土の器	所蔵あり
第73回	昭和50年上半年期	林京子	祭りの場	所蔵あり
第74回	昭和50年下半年期	中上健次	岬	所蔵あり
		岡松和夫	志賀島	所蔵あり
第75回	昭和51年上半年期	村上龍	限りなく透明に近いブルー	所蔵あり
第76回	昭和51年下半年期	なし	なし	
第77回	昭和52年上半年期	三田誠広	僕って何	所蔵あり
		池田満寿夫	エーゲ海に捧ぐ	所蔵あり
第78回	昭和52年下半年期	宮本輝	螢川	所蔵あり
		高城修三	樞の木祭り	所蔵あり
第79回	昭和53年上半年期	高橋揆一郎	伸予	所蔵あり
		高橋三千綱	九月の空	所蔵あり
第80回	昭和53年下半年期	なし	なし	
第81回	昭和54年上半年期	重兼芳子	やまあいの煙	所蔵あり
		青野聰	愚者の夜	所蔵あり
第82回	昭和54年下半年期	森禮子	モッキングバードのいる町	所蔵あり
第83回	昭和55年上半年期	なし	なし	
第84回	昭和55年下半年期	尾辻克彦	父が消えた	所蔵あり
第85回	昭和56年上半年期	吉行理恵	小さな貴婦人	所蔵あり
第86回	昭和56年下半年期	なし	なし	
第87回	昭和57年上半年期	なし	なし	
第88回	昭和57年下半年期	加藤幸子	夢の壁	所蔵あり
		唐十郎	佐川君からの手紙	所蔵あり
第89回	昭和58年上半年期	なし	なし	
第90回	昭和58年下半年期	笠原淳	奎二の世界	所蔵あり
		高樹のぶ子	光抱く友よ	所蔵あり
第91回	昭和59年上半年期	なし	なし	
第92回	昭和59年下半年期	木崎さと子	青桐	所蔵あり
第93回	昭和60年上半年期	なし	なし	
第94回	昭和60年下半年期	米谷ふみ子	過越しの祭	所蔵あり
第95回	昭和61年上半年期	なし	なし	
第96回	昭和61年下半年期	なし	なし	
第97回	昭和62年上半年期	村田喜代子	鍋の中	所蔵あり
第98回	昭和62年下半年期	池澤夏樹	スティル・ライフ	所蔵あり
		三浦清宏	長男の出家	所蔵あり
第99回	昭和63年上半年期	新井満	尋ね人の時間	所蔵あり
第100回	昭和63年下半年期	南木佳士	ダイヤモンドダスト	所蔵あり
		李良枝	由熙	所蔵あり
第101回	平成1年上半年期	なし	なし	
第102回	平成1年下半年期	大岡玲	表層生活	所蔵あり
		瀧澤美恵子	ネコババのいる町で	所蔵あり
第103回	平成2年上半年期	辻原登	村の名前	所蔵あり
第104回	平成2年下半年期	小川洋子	妊娠カレンダー	所蔵あり
第105回	平成3年上半年期	辺見庸	自動起床装置	所蔵あり
		荻野アンナ	背負い水	所蔵あり

第106回	平成3年下半期	松村栄子	至高聖所	所蔵あり
第107回	平成4年上半年期	藤原智美	運転士	所蔵あり
第108回	平成4年下半期	多和田葉子	犬傭入り	所蔵あり
第109回	平成5年上半年期	吉目木晴彦	寂寥郊野	所蔵あり
第110回	平成5年下半期	奥泉光	石の来歴	所蔵あり
第111回	平成6年上半年期	室井光広	おどるでく	所蔵あり
		笹野頼子	タイムスリップ・コンビナート	所蔵あり
第112回	平成6年下半期	なし	なし	
第113回	平成7年上半年期	保坂和志	この人の闘	所蔵あり
第114回	平成7年下半期	又吉栄喜	豚の報い	所蔵あり
第115回	平成8年上半年期	川上弘美	蛇を踏む	所蔵あり
第116回	平成8年下半期	辻仁成	海峡の光	所蔵あり
		柳美里	家族シネマ	所蔵あり
第117回	平成9年上半年期	目取真俊	水滴	所蔵あり
第118回	平成9年下半期	なし	なし	
第119回	平成10年上半年期	花村萬月	ゲルマニウムの夜	所蔵あり
		藤沢周	ブエノスアイレス午前零時	所蔵あり
第120回	平成10年下半期	平野啓一郎	日蝕	所蔵あり
第121回	平成11年上半年期	なし	なし	
第122回	平成11年下半期	玄月	蔭の棲みか	所蔵あり
		藤野千夜	夏の約束	所蔵あり
第123回	平成12年上半年期	町田康	きれぎれ	所蔵あり
		松浦寿輝	花腐し	所蔵あり
第124回	平成12年下半期	青来有一	聖水	所蔵あり
		堀江敏幸	熊の敷石	所蔵あり
第125回	平成13年上半年期	玄侑宗久	中陰の花	所蔵あり
第126回	平成13年下半期	長嶋有	猛スピードで母は	所蔵あり
第127回	平成14年上半年期	吉田修一	パーク・ライフ	所蔵あり
第128回	平成14年下半期	大道珠貴	しょっぱいドライブ	所蔵あり
第129回	平成15年上半年期	吉村萬壺	ハリガネムシ	所蔵あり
第130回	平成15年下半期	金原ひとみ	蛇にピアス	所蔵あり
		綿矢りさ	蹴りたい背中	所蔵あり
第131回	平成16年上半年期	モブ・ノリオ	介護入門	所蔵あり
第132回	平成16年下半期	阿部和重	グランド・フィナーレ	所蔵あり
第133回	平成17年上半年期	中村文則	土の中の子供	所蔵あり
第134回	平成17年下半期	絲山秋子	沖で待つ	所蔵あり
第135回	平成18年上半年期	伊藤たかみ	八月の路上に捨てる	所蔵あり
第136回	平成18年下半期	青山七恵	ひとり日和	所蔵あり
第137回	平成19年上半年期	諏訪哲史	アサツテの人	所蔵あり
第138回	平成19年下半期	川上未映子	乳と卵	所蔵あり
第139回	平成20年上半年期	楊逸	時が滲む朝	所蔵あり
第140回	平成20年下半期	津村記久子	ポトスライムの舟	所蔵あり
第141回	平成21年上半年期	磯崎憲一郎	終の住処	所蔵あり
第142回	平成21年下半期	なし	なし	
第143回	平成22年上半年期	赤染晶子	乙女の密告	所蔵あり

第144回	平成22年下半年期	朝吹真理子	きことわ	所蔵あり
		西村賢太	苦役列車	所蔵あり
第145回	平成23年上半年期	なし	なし	
第146回	平成23年下半年期	円城塔	道化師の蝶	所蔵あり
		田中慎弥	共喰い	所蔵あり
第147回	平成24年上半年期	鹿島田真希	冥土めぐり	所蔵あり
第148回	平成24年下半年期	黒田夏子	abさんご	所蔵あり
第149回	平成25年上半年期	藤野可織	爪と目	所蔵あり
第150回	平成25年下半年期	小山田浩子	穴	所蔵あり
第151回	平成26年上半年期	柴崎友香	春の庭	所蔵あり
第152回	平成26年下半年期	小野正嗣	九年前の祈り	所蔵あり
第153回	平成27年上半年期	羽田圭介	スクラップ・アンド・ビルド	所蔵あり
		又吉直樹	火花	所蔵あり

旧字を新字に改めた箇所があります。